「未来への視座」
Views for the Future 12
参加者募集！

拝啓、寒い冬でした。みなさま昨年のVF11以降、いかがお過ごしでしょうか。
工房の室内で越冬したアゲハチョウのサナギはじっとしたままですが、久利屋グラフィックはVF12の刊行に向けて動き始めました。

2011年3月11日から一年が過ぎようとしています。この冬の北日本・北陸の雪は、悲しみや現実の重さを覆い尽くすかのように降り積もっていますが、雪解けと共にそれらが消え去るわけではありません。自然の、人間に対する無関心と冷酷さとヒトの欲望がもたらした回復不能な危機に向き合いながら今年も「未来への視座」VF12を刊行します。

参加希望の方は早めに久利屋グラフィックまでご連絡下さい。初参加の方も歓迎です。初めての方には内容の補足プリントも用意します。不明な点はご遠慮なくお問合わせ下さい。

今回のキーワードは「color：いろ」としました。

研究社新英和大辞典で、Color,(英)Colourを引くと
1－a 色、色彩　b 黒白のコントラスト、色調(光線・画・墨絵などの)明暗
2－a(絵画などの)着色、彩色　b 絵具　c 色素、染料
3－a 顔色、健康な顔色　b 赤面、紅潮
4－a 皮膚の色　b(人種的区別となる白色以外の)色;(特に)黒色　c[集合的]黒人
8－a 外見、姿、もっともらしさ、潤色
10－(印刷)刷り上がりの色調・・・・など、

広辞苑で、いろ[色]を引くと
❶視覚のうち、光波のスペクトル組成の差異によって区別される感覚。光の波長だけでは定まらず、一般に色相(単色光の波長に相当するもの)、彩度(あざやかさ即ち白みを帯びていない度合)および明度(明るさ即ち光の強弱)の三要素によって規定される。色彩。
❷色彩に関係ある次のようなもの。㈰階級で定まった染色。当色(とうじき)。㈪禁色(きんじき)。㈫喪服のにびいろ。㈬婚礼や葬礼の時、上に着る白衣。色着。色被り。㈭顔色。㈮おしろい。化粧。㈯醤油や紅の異称。
❸容姿などが美しいこと。㈰容姿または髪の毛が美しいこと。㈪物事の美しさ。
❹ものの趣。㈰興味。趣味。㈪きざし。様子。㈫調子。(「音色」「声色」)
❺愛情。愛情の対象たる人。㈰なさけ。㈪色情。欲情。情事。㈫情人。恋人。色男。色女。㈬遊女。
❻㈰種類。品目。㈪租税としての物品。しき。
❼邦楽で、主旋律でない修飾的な節。
・・・など。また色を冠した項目が３ページに渡ります。

あまり深追いして、物理光学・感覚生理学・社会学・哲学などへ入り込むこと無く、広く、ゆるく捉え、今迄の作品集よりも色相・彩度・明度の幅が広がればと云う程の設定です。

●キーワード：「color：いろ」
●シートサイズ：257×364ミリ(B4サイズ)
●限定部数：参加人数決定後にお知らせします
●展示会：2012年10月30日(火)～11月4日(日)予定　gallery TEN／東京谷中
●参加費：20,000円(装丁、展示会、DM費等含む)

<スケジュール>
○4月末　　参加人数(制作部数)決定
○5月上旬　限定部数お知らせ
○9月末　　作品締切り
○10月　　配布・展示会

久利屋グラフィック　〒180-0014　武蔵野市関前2-16-14　T/F 0422-53-1351
松村・田中　clear-g.screenprint@art.email.ne.jp

この企画は、参加者の全作品が収まった作品集を全員が受け取ることを目的としています。以下補足説明をご一読下さい。分かりにくい点は気軽にお尋ね下さい。

●キーワードについて
毎回キーワードを設定しています。「perspective」、「装飾・非装飾」、「border」、「permeate」、「reflect」、「transparent」、「medium」、「かがやき: bright」、「うつす」、「surface－浅い・深い」、「界面－inter-face」に続き今回は「color：いろ」としました。ただしその解釈はあくまで幅広く自由に。この制作を通して何かしら考えてみるきっかけになれば・・という程度のゆるやかな設定です。作品タイトルも自由につけて下さい。

●限定部数・制作部数について
○限定部数は決まっていますが、実際にはそれ以上の数を制作していただいてもよいのです。展示会会期中は作品の販売もしますので、むしろ部数には余裕があるほうが望ましいです。ただしその場合、限定部数を超える作品は“A.P.”などとして、限定部数外の作品として区別して下さい。

○展示会に出品する作品を同じキーワード、サイズで別にもう1点制作して下さい(ひとり２作品を展示します)。この作品は展示用に最低1部あればOKで制作部数は問いません。異なる版式、手法でも構いません。

●版式・制作手法について
収蔵作品については版画、写真などのように全部数が内容、質において同じであること、つまり参加者全員に同じ内容の作品が行き渡ることを大切にしたいと考えています。モノタイプや手描き等の作品も1部ごとの仕上がりの質を保つようにお願いします。また作品集には参加者名簿が入ります。タイトルの他、各作品の版式、制作手法の説明も載せますので、提出時に具体的にお知らせ下さい。

●展示会について
○外へ向けて発表、紹介することで内容の充実をはかることを目的に展示会を開催するようになりました。(当初は参加者内での配布会のみでした。)毎回、限定番号最後の1冊を1部ずつシートで展示してきましたがその後、展示作品をもう1点増やすことにしました。作品全体のボリュームと会場とのバランスが程良く以後このかたちをとっています。

○今回も限定番号最後の作品と別のもう1点を展示します(作品は会期終了後にお返しします)。ボードに貼って展示しますので、剥がす時に裏面にダメージが出ることがありますが、ご了承願います。

○会期中は展示作品を販売します。提出時に希望のプライスをお知らせ下さい。売れた場合は全額を作家に還元します。売り上げにより参加費の負担が軽減されれば理想的だと考えますが、プライスは各々自由に設定して下さい。

＊ギャラリーの詳細については以下へアクセスして下さい(過去の展示の様子もご覧いただけます)。
gallery　TEN　　http://blogs.dion.ne.jp/blogten